

メトホルミンの処方時の注意点

2016年7月2日 県連薬事委員会

- 経口摂取が困難な患者や寝たきりなど、全身状態が悪い患者には投与しないことを大前提とする。(Rec)
→寝たきり、経腸栄養の患者には禁忌とする。

- 腎機能障害患者（透析患者を含む） (Rec1)
eGFR 30 (mL/分/1.73m²) 未満 : 禁忌
eGFR 30~45 : 慎重投与(リスクとベネフィットを勘案して投与)

※全メトホルミン服用患者のeGFRを抽出し、30未満をピックアップし主治医へ連絡する

- 高齢者 (Rec4)
 - ①70歳以上はMAX 750mg までとする。(2011年薬事委員会)
90歳以上は中止、もしくは最大限減量していく。
 - ②定期的に腎機能 (eGFR)、乳酸値を確認する。
- シックデイの際には脱水が懸念されるので、服薬を中止する。(Rec2)
- 高度の心血管・肺機能障害（ショック、急性うっ血性心不全、急性心筋梗塞、呼吸不全、肺塞栓など低酸素血症を伴いやすい状態）、外科手術（飲食物の摂取が制限されない小手術を除く）前後の患者には禁忌 (Rec3)
- 軽度～中等度の肝機能障害には慎重投与 (Rec3)